

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171500321		
法人名	有限会社 ケア コスモス		
事業所名	グループホームほのぼの		
所在地	岐阜県中津川市千旦林2111-2		
自己評価作成日	平成22年9月30日	評価結果市町村受理日	平成22年12月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かで、のんびりした環境にあり、天気の良い日は、恵那山をはじめ、御嶽山、中央アルプスも眺められます。施設の周辺は平地で散歩がしやすく、田畑にかこまれています。散歩時は、近所の方から野菜、花などをいただいたりして、気に掛けていただいています。今年度は、火災の避難訓練に力を入れ、地域の方にも参加していただき、又地域の訓練にも施設から職員が参加させていただきました。それから、楽しみとして、ぶどう狩り、紅葉見物等計画し季節ごとにイベントを行ったり、旬の食材で郷土料理を堪能してもらっています。又介護の面では、今年から利用者の担当を決め課題の検討をなるべくスムーズに出来るようスタッフ全員で取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

柿や栗の畑が点在する田園地帯で、近くに恵那山を眺め秋には紅葉も楽しめる自然に恵まれた場所にホームはある。代表者は、利用者に食事を楽しんでもらう事を大切にしており、食事の準備の為、利用者と一緒に調理場に立ち、腕を振るうこともある。又、月1回、昼食を兼ねて近くの喫茶店へ全員で出掛けランチタイムを楽しんでいる。ホームでは災害対策にも力を入れ、毎月自主避難訓練を実施し、地域の4軒に「自動火災通報装置」の設置協力を得ている。管理者はじめ職員は理念である『隣に座る その人を知る ゆっくりと・穏やかに』を念頭に利用者の思いを尊重して、自然体で穏やかな気持ちで日々のケアに取り組んでいる。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=2171300599&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成22年11月30日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+Enter)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に掲示、事あるごとにスタッフ同士で確認し、行動に繋げている。	管理者と職員で話し合い、「共に地域で生きていく」を念頭に、自分たちの出来る事、日頃やっている事を理念とした。理念と共に毎年スローガンを作り、カンファレンス時や何かある毎に振り返り実践につなげている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区長さんや近隣のかたの推進会議参加、他散歩時の交流、お祭り参加等している。	自治会に加入し「ほのぼのだより」を回覧し、ホームの行事報告をしている。高校生の実習や、老人会での認知症勉強会の講師を引き受けているが、今年は諸事情から地域の人に参加する行事が実施できなかった。	地域の人が気軽にホームに立ち寄ってもらえる様に、今後、行事予定の回覧や運営推進会議で話し合う等、地域への働きかけを工夫される様期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	常会出席時の施設の説明、要請があればキャラバンメイトの活用、回覧板に施設の現状報告等。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回推進会議の開催の中で、意見交換しながら、出来るところから取り組んでいる。	会議は多数の家族や関係者の参加を得て開催され、有意義な話し合いが行われている。9月は避難訓練を兼ね開催し、改良点や問題点について適切なアドバイスや意見をもらい、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員のつき1回の訪問、推進会議への担当者の参加、その他随時相談にのってもらっている。	市の介護保険室に電話で問い合わせをしたり、困り事など気軽に相談にのってもらっている。又、研修会の案内の連絡を受ける等協力関係を築いている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的には、玄関の施錠はしていない。安全性が疑われる際は、家人の了承を得る。	玄関の鍵をかけない為の工夫について話し合い、今は施錠していない。職員は身体拘束による弊害について、研修や勉強会で正しく理解している。又、利用者に話しかける時も穏やかで拘束をしないケアを心掛けている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会への参加をして、意識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会への参加をして、意識を高めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実際のコミュニケーション、電話での対応を大切にしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議での発言、電話での発言等しやすい環境作りを心掛けている。	運営推進会議には常に4～5人の家族の参加があり、意見や要望を聞いている。訪問の少ない家族には、職員が電話で利用者の様子を伝え、要望や意見を聞きミーティングで話し合いケアに反映させている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のカンファレンス、朝のミーティングで意見交換しながら、出来ることから取り組んでいる。	カンファレンスやミーティングで出された意見を全ての職員で話し合い、意見をまとめ管理者・代表者に伝えている。出された意見はできる事から運営に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスに伴い、スタッフの向上心を高めてもらえる様、研修参加や、資格取得の為の勤務状況への考慮をしている。他勤務希望を可能な限り入れている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパスに伴い、スタッフの向上心を高めてもらえる様、研修参加や、資格取得の為の勤務状況への考慮をしている。他勤務希望を可能な限り入れている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のGHでの複数事業所における、意見交換、勉強会施行等している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	理念に基づき、入所者を知るよう心掛けている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所契約時に家族・本人の思いなどを聞くようにしている。その後も折に触れ、話している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話していく中で、必要なサービス利用も取り入れられるように心掛けている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人の好きなこと、得意な事を見つけ、強制的ではなく、やってもらうよう接している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家人の協力でプランの立案、施行が可能となっている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの物の使用、友人の来訪も歓迎している。	馴染みの美容院へ行ったり、外出時に本屋へ寄り、買い物を楽しんでいる。家族の協力を得てお墓参りや、生まれ育った家を訪ねることもある。又、家族や友人に電話をしたり手紙や年賀状を出して返事をもらう事もある。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その時にくつろぎやすいよう、椅子、ソファ等の配置を考慮したり、なるべく、ホールでみんなで過ごせるよう、工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も差しさわりのない程度に対応させてもらっている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通困難な方も行動、反応等にて、心地よく過ごして貰えるよう心掛けている。会話可能な方も、意見の尊重をしている。	散歩やドライブ時に利用者と交わした会話や、日々の行動や会話から、希望や意向を把握するよう努めている。意思疎通が困難な利用者には、本人の言葉が引き出せるような声掛けを心掛けている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント表の活用をし、なるべく近づけるように心掛けている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「いつもと違う」に気をつけながら、日々その人と向き合っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当スタッフを決め、毎月のケースカンファレンス、日々のミーティングなどで、検討プランに繋ぎさせている。又、必要時はDr、家人との連絡を取り合っている。	毎日のミーティングで話し合い、定期的にモニタリングをして作成している。緊急時・急変時には利用者や家族、医師の意見も取り入れて相談しながら現状に即した介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	26と同様の他、介護記録への記入、スタッフ連絡帳の活用		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り行えるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	健康体操、ボランティアの活用		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどが本人のかかりつけ医をもっており、家族と一緒に受診している。家族が付き添えないときは、職員と一緒に受診し結果を家族に報告している。	入居前からのかかりつけ医へは家族と一緒に受診し、家族から報告を受け情報を共有している。協力医は24時間対応できる体制があり、適切な医療を受ける関係が来ている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフの中に看護職がいる。利用者の変化や気づきは報告を受け、必要時適切な指示を受けられる。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリー、紹介状などを渡し、必要時には直接申し送りに行く。入院後も連絡を取り合っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に家族・本人の思いなどを聞くようにしている。現在できることを伝えていく。チームで取り組めるようターミナルについての勉強会にも参加している。	重度化や終末期についての外部研修に参加している。状態の変化に応じて、協力医の対応を基本とし、何が出来るか、ホームの対応方針を家族と話し合い、支援に向け共有しているが、取り組むまでには至っていない。	チームで取り組めるターミナルについて勉強会等を重ねながら協力医、職員、家族と話し合い、具体的な実現に向けた取り組みを期待したい。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡のパネルを作り定位置に置いている。救急隊の指導(受講)はしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡のパネルを作り定位置に置いている。毎月1回の自主避難訓練を実施。消防署・地域の方との避難訓練も行っている。	3月にスプリンクラーの設置を完了した。毎月自主避難訓練を行っている。夜間想定訓練も度々行い、夜勤者の不安を取り除く努力をしているが、食糧・寒さ対策等の備蓄はされていない。	職員だけでの誘導の限界を踏まえ、自治会・地域住民・警察・消防等との連携はとれているが、いざという時に備えた備蓄が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の生きてきた背景を考慮して言葉かけや対応をしている。	利用者の誇りやプライバシーに配慮した言葉掛けや対応ができる様、その都度職員間で話し合い、見直している。又、排泄・入浴時の羞恥心への配慮も行っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	23と同じ。また、本人の言葉が引き出せるように声掛けをし、自分の意思表示、決定ができるよう心がけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	言葉かけを行い希望を聞き、その人のペースを見るなど無理強いをしないようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人にできるだけ自由にしていだいて		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好をメニューに取り入れるようにしている。声かけをしながら下準備・食器の準備・片付けを一緒に行っている。	季節感や好みを取り入れたメニューを利用者と一緒を考え、準備、配膳や片付けを一緒に行っている。メニューは昔懐かしい物や旬な野菜を中心に食べる事の大切さを一番に考えている。又、代替食の準備もある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量が少ない場合、チェック表の活用、食事形態などを工夫し少しでも摂取量が増えるようにしている。また、濃縮尿の時は水分摂取を促し、概ねチェックしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	感染防止のうがい、手洗いを促している。また、口臭にも気をつけながら、口腔ケアを促し介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意の有無、排泄パターンを把握に努め、時間ごとにトイレ誘導を行っている。行動やしぐさなど観察し排泄のサインを早くつかみ誘導できるよう心がけている。	排泄チェック表を作り、一人ひとりのパターンを把握し、昼間は時間毎にトイレ誘導を行っている。夜間はハリハピリパンツと大きめのパットを使いながらポータブルトイレでも排泄できるように支援をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を利用し排泄パターンを把握するようにしている。野菜中心の食事とし、可能な限り散歩に出かけたり、水分をしっかりと取ってもらうように心がけている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には曜日、時間は決まっている。必要に応じてはその限りではない。本人からの希望があれば、スタッフの体制を整え希望の時間に入浴できるようにしている。	体調や希望に配慮しながら、週2回午後から入浴し、希望があれば夜間でも入浴できる体制を整えている。又、季節の菖蒲湯・ゆず湯等で入浴を楽しむ支援もしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホールに大きなソファを置き、いつでもくつろげるようにしている。体調にあわせ起床、就寝時間を変更している。また、各々の部屋の環境調整にも心がけている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当を決め必ず服薬確認している。変化があれば服薬前に看護師に報告し指示をあおぐ。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人のもてる力が発揮できるよう、得意としている事や、趣味を考慮しながらレクリエーションや生活に参加してもらっている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの喫茶店出かけたり、散歩をしている。ドライブにも出かけたり、希望があれば、一緒に買い物もやっている。	利用者全員が毎日の散歩に出かけている。又、毎週木曜日にドライブに出かけ、季節によって花見や紅葉見学、ぶどう狩りに出かけている。月に1回、近くの喫茶店へ昼食を兼ねて全員一緒に外出できるよう支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には「なくなってもよい」事を了解の上で本人が所持することもある。その他、希望時は一緒に買い物に行く。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時、家族の方や友人に電話をしたり、手紙なども自由に行っている。場合により、家族の方の了解を得た上で、手紙の内容を確認する事もある。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた花などを飾っている。室温などの環境調整に心がけ、希望に応じた対応を心がけている。	天井は高く、太い梁がとあり、ほっとできる空間がある。居間にはソファやコタツを置き利用者が思い思いにくつろげるようにしている。利用者の作品を飾り、明るく、広く、心地良い光や風が通る共用空間としている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	心地よく過ごせるよう席順を考えたり、くつろぐ椅子の配置にも考慮している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた馴染みの物があれば部屋に置いてもらっている。友人、知人等の訪問も歓迎している。	居室に暖簾がかかり、各部屋に洗面がある。利用者や家族と相談し、プレゼントのぬいぐるみや人形が置いてある。カレンダーや時計、神棚やホームで作った作品が飾られ、居心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に合わせて環境・用具の準備をしている。		